

あきばやまこふんぐん 《秋葉山古墳群クイズ解説》

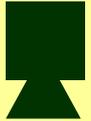
1 秋葉山古墳群は、発掘調査の結果、1750年前頃にこの地域を統治していた歴代権力者の墓として造られたことがわかりました。秋葉山古墳群が築かれ始めた時代は、邪馬台国の女王卑弥呼の跡を継いだ台与の時代と重なり、大型の墳墓(古墳)が造り始められるという大きな変化が始まる時期でした。①

2 この上に火を防ぐ神を祀った「秋葉社」という祠があったことから、第2号墳は秋葉山古墳と古くから呼ばれ、これが古墳群の名となりました。また、第1号墳の上には、山(比叡山)の神を祀った山王社の祠があり、山王山古墳と呼ばれていたといわれています。第2号墳の後円部頂上は、標高84.6mと市内で最も標高が高い地点です。③

3 発掘調査によって、弥生時代終末から古墳時代前期(三世紀後半～四世紀)にかけて継続的に造られた古墳群であることがわかりました。年代が古い順に第3号墳・4号墳→2号墳→5号墳・1号墳となり、前方後円墳の形がだんだん整って来るのがわかります。古墳の形も色々あり、第1～3号墳が前方後円形、第4号墳が前方後方形、第5号墳は方形です。①

4  **ぜんぽうこうえんふん**
【前方後円墳】

えんけい しかくけい ほうけい
円形と四角形(方形)
が接続した形の古墳。
おおがた おお こふん
大型のものが多く、古墳
じだい だいひょう かたち
時代を代表する形。

 **ぜんぽうこうほうふん**
【前方後方形墳】

ぜんぽうこうえんふん えんけい
前方後円墳の円形が
ほうけい か
方形に変わったもの
で、方形と方形が接続
ほうけい ほうけい せつそく
した形の古墳。
かたち こふん

 **ほうふん**
【方墳】

うえ み しかく
上から見ると四角
けい こふん
形の古墳。

秋葉山古墳群では、朱が付いた注ぎ口のある土器が出土しています。水銀朱は、古代中国においてその色や防腐効果があることなどから、不老不死を願う仙薬として用いられていました。日本列島においても古墳等に埋葬された遺骸に水銀朱を振りまく事例があり、秋葉山古墳でも、そのような祭祀が行われていたと考えられます。

前方後円墳(ぜんぽうこうえんふん)